

平成29年度水道事業会計予算の概要

資料1

(1) 業務量

区 分 項 目	平成29年度 当初予算	平成28年度 当初予算	対前年度予算	
			差 引	伸び率(%)
年間総給水量(百万m ³)	171.9	172.2	▲ 0.3	▲ 0.2
給水戸(箇所)数(千戸)	803.0	795.0	8.0	1.0

※伸び率はm³、戸単位で計算

(2) 財政規模(税込額) (単位: 億円)

区 分 項 目	平成29年度 当初予算	平成28年度 当初予算	対前年度予算	
			差 引	伸び率(%)
収 益 的 支 出	346.4	356.3	▲ 9.9	▲ 2.8
資 本 的 支 出	150.4	111.7	38.7	34.7
合 計	496.8	468.0	28.8	6.2

※伸び率は千円単位で計算。

(3) 経営収支(税抜額) (単位: 億円)

区 分 項 目	平成29年度 当初予算	平成28年度 当初予算	対前年度予算		主な増減理由	
			差 引	伸び率(%)		
収 益	給 水 収 益	297.3	297.7	▲ 0.4	▲ 0.1	有収水量の減
	分 担 金	5.2	5.1	0.1	1.3	
	基金からの繰入金	-	-	-	-	
	受 取 利 息	1.4	1.6	▲ 0.2	▲ 10.6	平均利率の減
	一 般 会 計 繰 入 金 (阪 水)	0.3	0.4	▲ 0.1	▲ 23.1	阪水への繰出金の減
	長期前受金戻入益	32.0	31.6	0.4	1.5	
	特 別 利 益	4.4	11.2	▲ 6.8	▲ 61.0	固定資産売却益の減等
	そ の 他 収 益	18.5	20.0	▲ 1.5	▲ 7.7	受託工事収益の減等
	合 計 (A)	359.1	367.6	▲ 8.5	▲ 2.3	
費 用	人 件 費	60.8	60.5	0.3	0.5	
	受 水 費	111.0	112.3	▲ 1.3	▲ 1.2	
	物 件 費	47.8	51.2	▲ 3.4	▲ 6.5	動力費・修繕費の減等
	減 価 償 却 費 等	99.8	99.7	0.1	0.0	
	支 払 利 息 等	6.2	6.8	▲ 0.6	▲ 7.6	企業債残高の減
	繰 出 金	0.3	0.4	▲ 0.1	▲ 23.1	阪水への繰出金の減
	そ の 他 費 用	1.1	3.5	▲ 2.4	▲ 68.2	受託工事費の減等
	合 計 (B)	327.0	334.4	▲ 7.4	▲ 2.2	
当年度損益(A)-(B)=(C)	32.1	33.2	▲ 1.1	▲ 3.5		
前年度末累積損益(D)	75.6	42.4	33.2	78.3		
当年度末累積損益(C)+(D)	107.7	75.6	32.1	42.4		

※伸び率は千円単位で計算。

(4) 資本的収支 (税込額)

(単位：億円)

項 目	区 分	平成29年度 当初予算	平成28年度 当初予算	対前年度予算	
				差 引	伸び率 (%)
収 入	企 業 債	-	-	-	-
	固 定 資 産 売 却 代 金	0.7	3.9	▲ 3.2	-
	工 事 負 担 金	4.6	4.0	0.6	13.0
	国 庫 補 助 金	1.5	1.3	0.2	23.5
	施 設 増 強 負 担 金	0.1	1.2	▲ 1.1	▲ 94.9
	基金収入 (基金の運用益)	2.0	2.1	▲ 0.1	▲ 6.2
	基金からの繰入金	14.2	3.0	11.2	366.9
	一般会計繰入金	2.1	2.7	▲ 0.6	▲ 20.4
	雑 収 入	3.8	6.5	▲ 2.7	▲ 41.8
	そ の 他	0.3	0.2	0.1	24.0
合 計 (A)		29.3	24.9	4.4	17.5
支 出	建 設 改 良 費	113.8	77.7	36.1	46.4
	基幹施設整備工事	37.3	15.7	21.6	137.9
	配水管整備増強工事	51.2	40.2	11.0	27.2
	開発団地施設工事等	25.3	21.8	3.5	16.2
	企 業 債 償 還 金	19.4	20.6	▲ 1.2	▲ 5.9
	基金への積立	2.0	3.2	▲ 1.2	▲ 36.1
	繰 出 金	5.9	9.2	▲ 3.3	▲ 35.6
	そ の 他	9.3	1.0	8.3	810.5
合 計 (B)		150.4	111.7	38.7	34.7
収支差引(A)-(B)		▲ 121.1	▲ 86.8	▲ 34.3	▲ 39.6

※伸び率は千円単位で計算。

(注) 資本的収入額が資本的支出額に不足する額121.1億円は、損益勘定留保資金等で補てんする。

(5) 主要施策の概要 (税込額)

(単位: 百万円)

事 項	予算額	収益的支出	資本的支出	説 明
1. 水道システムの最適化				
(1) 水源	12,309	12,037 12,019	272 232	<ul style="list-style-type: none"> ・上ヶ原浄水場再整備 官民連携等可能性調査 (P. 5) ・阪神水道企業団・県営水道からの受水 ・自己水源の有効活用 布引溪流のブランド活用 ・水源保全活動の強化 「水源の森プロジェクト」の推進 (P. 7)
		4	—	
ポトルドウォーター「神戸 布引溪流」 【水の科学博物館建築100周年】ラベル		14	40	
(2) 貯水池～配水池	222	5	217	<ul style="list-style-type: none"> ・配水池の統廃合・ダウンサイジング ・浄水汚泥のリサイクル
		—	217	
		5	—	
(3) 配水管	4,947	48	4,899	<ul style="list-style-type: none"> ・配水管網再構築計画の推進、管路更新のペースアップ
				
				配水管更新工事の状況
(4) 給水装置および受水槽	45	45	—	<ul style="list-style-type: none"> ・受水槽の適正な管理の啓発 ・管路情報システムの整備 ・水道修繕受付センターの運営、 悪徳工事事業者対策のPR
		9	—	
		13	—	
		23	—	
(5) 水質管理	81	—	81	<ul style="list-style-type: none"> ・水質検査機器の整備、 水質監視モニターの更新
2. 災害への備え				
(1) 災害に強い水道施設の整備	455	6	449	<ul style="list-style-type: none"> ・津波対策～水管橋の点検・補修 ・配水池等の耐震化の推進 ・安全性調査と対策工事の実施 ～土砂災害対策 (P. 6)
		6	—	
		—	431	
		—	18	
				
				水管橋
(2) バックアップ体制の強化	637	—	637	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地送水施設連絡管整備、 北神地区送水施設整備
(3) 市民とともに築く災害対策	38	1	37	<ul style="list-style-type: none"> ・ふっQすいせんの整備 (P. 5) ・貯水機能のある災害時給水拠点の再整備 (P. 6)

(単位：百万円)

事 項	予算額	収益的支出	資本的支出	説 明
3. 経営の持続				
(1) 経営基盤の強化	13,070	13,070 1,087	—	<ul style="list-style-type: none"> — 公民連携のさらなる推進 お客さま電話受付センター運用業務、 水道料金徴収業務、 メーター取替業務等の委託 — 受水費の負担軽減 (阪神水道企業団・県営水道)
(2) 人材の確保・育成と 社会貢献	7	7 4 3	—	<ul style="list-style-type: none"> — 人材育成と技術の継承 — 水国際貢献事業の推進、海外との人的 ネットワークの構築
				 <p>JICA研修</p>
(3) 水需要減少社会における 料金体系の検討	18	18	—	<ul style="list-style-type: none"> — お客さまとのコミュニケーションの 推進
4. 広報とコミュニケーションの 充実・強化	111	95 21 3	16	<ul style="list-style-type: none"> — こうべアクアサポーター制度の推進 — 経営状況に関する情報発信、 ビジョン懇談会の開催 16 16 「水育」の推進、水の科学博物館の活用 — AQUAルネッサンス神戸 「おふる部」の取り組み
				 <p>こうべアクアサポーターのワークショップ実施風景</p>
				 <p>「水育」の推進(小学生による配水池見学)</p>

1 上ヶ原浄水場再整備 官民連携等可能性調査 (事業費：21.6 百万円)

水道局では、阪神水道系へのバックアップ機能を強化するため、水系が異なる上ヶ原浄水場の再整備を検討している。これについては、効率的な施設運用や整備コスト削減の観点から、最も効果的かつ経済的な手法により事業を進める必要がある。そこで、官民連携による整備手法も含めた検討を進めていくための可能性調査を行う。

具体的には、再整備の検討に必要な基礎情報を整理し、整備内容の基本検討を行い、この結果を踏まえ、事業効果の確認や、官民連携事業の導入可能性評価を行う。



上ヶ原浄水場

整備年度 : 大正 6 年
 浄水能力 : 70,000m³/日
 浄水方式 : 急速ろ過方式 (8 池)
 水 源 : 千珂貯水池

2 災害に強い水道づくり

(1) 災害時臨時給水栓「ふっQすいせん」の整備 (事業費：14.6 百万円)

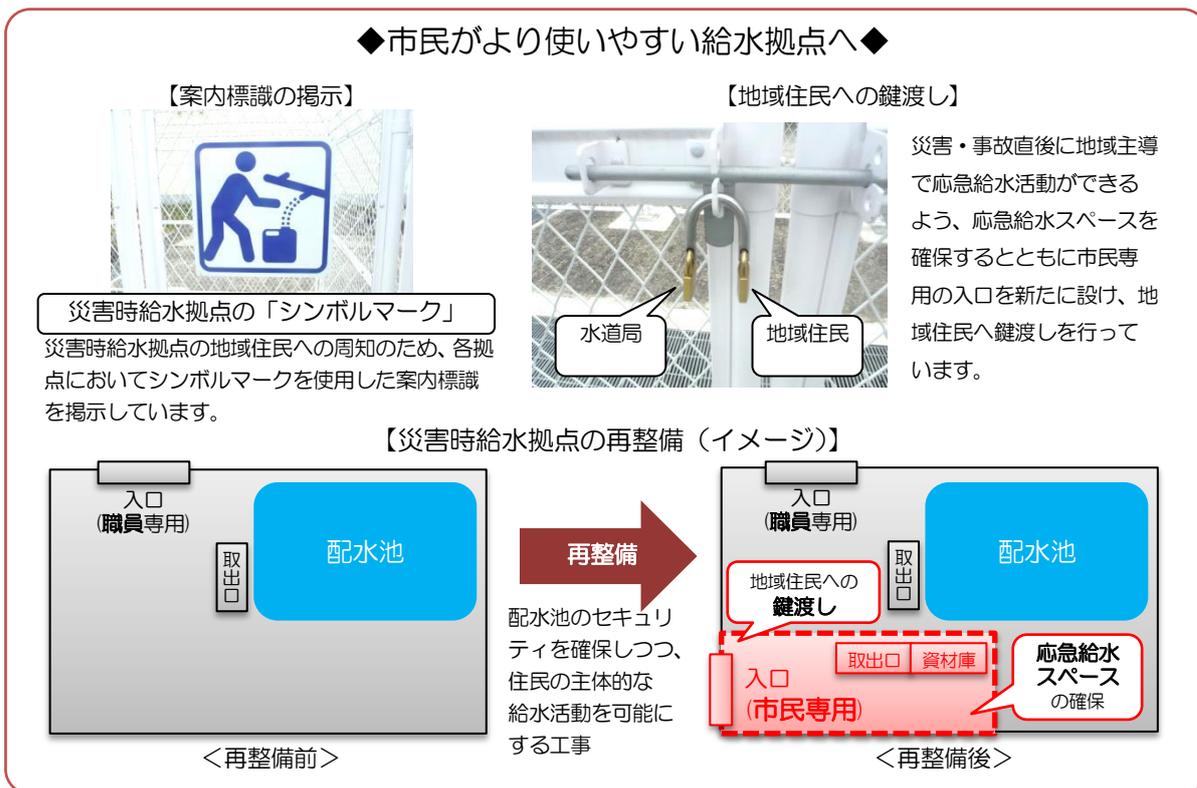
配水池から配水管までの耐震化が完了した小学校等に設置する「いつでもじゃぐち」の整備を進めてきたが、耐震化に関わらず、災害時の避難所として利用する小学校を中心に防災福祉コミュニティ単位に 1 箇所「ふっQすいせん」を整備し、市民の「より身近な場所で給水拠点を整備してほしい」という要望に応じていく。これらの災害時臨時給水栓は、災害直後は給水ができないが、配水管復旧とともに順次給水が可能となる拠点である。(平成 29 年度は 5 か所整備予定)



案内サイン

(2) 貯水機能のある災害時給水拠点の再整備 (事業費 : 22.8 百万円)

自助・共助・公助のバランスの重要性から災害・事故直後に地域主導で応急給水活動がしやすい環境づくりとして、配水池のセキュリティを確保しつつ、「貯水機能のある災害時給水拠点」に市民専用の入口を新たに設け、応急給水スペースを確保する再整備を行う。これらの拠点は防災福祉コミュニティ等への応急給水資材保管庫等の鍵渡しを実施しており、地域団体が管理できる仕組みとなっている。(鍵渡し済は 36 箇所 平成 29 年度は 2 か所整備予定)



(3) 土砂災害時警戒区域内の水道施設の防止対策 (事業費 : 18.1 百万円)

神戸市の水道施設の中には、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域内に位置しているものも多い。近年、各地でゲリラ豪雨等の大雨により山林の斜面崩壊が相次いでおり、土砂災害に対する備えは、一層重要性を増している。平成 29 年度は、土砂災害警戒区域等に位置する水道施設の現状を把握するため、測量など現地調査を行い、対策工事の必要性を評価し、次年度以降の詳細調査・対策工事の優先順位を定める。

3 「水源の森プロジェクト」の推進（事業費：4 百万円）

神戸市最大の自己水源である千苺貯水池では、近年、水源林の表土や倒木が貯水池内に流入し、水質悪化の一因になっている。

このため、平成 27 年度には専門家に貯水池周辺の水源林調査を依頼し、その結果を踏まえて目指すべき森の姿や森林整備の方向性について検討を重ねてきた。

千苺貯水池の流域は、神戸市域外に大きく広がっており、流域市町や住民、ボランティア団体、企業などと連携した活動体制を構築することが重要であることから、平成 28 年度より千苺貯水池周辺を対象とした市民講座（「森と水の守り人養成講座 2016」）を開講し、地域に根差した活動の担い手づくりを進めている。また、貯水池周辺の自然に関心をもってもらえるよう環境学習会を実施している。

平成 29 年度から、この講座の修了生を中心に、本市と包括連携協定を結んだ麒麟株式会社（麒麟ビール神戸工場）とも協働して保全活動に取り組む予定である。なお、市民講座、環境学習会も継続する。



「森と水の守り人養成講座 2016」 （座学）



（体験）